

報られる社会に 指導者の役割



勝間和代 (かつま・かずよ) 経済評論家兼公認会計士。経営コンサルタント、トレーダー、証券アナリストなどの経験を生かして、著作や講演、内閣府男女共同参画局の「仕事と生活の調和に関する専門調査会」の専門委員も務めるなど幅広い活躍を続ける。ビジネス書分野で次々とベストセラーを生み出す一方で、家庭では3女の母という一面も持つ。40歳。

勢な局面は選択肢も分かりやすく、いい循環が始まるんですが、ミスをして動揺すると局面が混沌としてしまう。そうなる相手まかせ。しかし、そういう状況のほうが打開策を考える。将棋って、基本的に一手差でやっていって、それ以上差が開いたら勝負がついちやう。だから、あきらめずについてゆく必要がある。根気が気力がどこまで持続できるのかはあります。

防戦はつらそうですね。そうでもありません。むしろ、私の場合は、「少し優勢」という局面のほうが心情的にはきついですね。今の日本が指している将棋はまさに「少し優勢」な局面だと思っんです。ちょっとでも悪手を指すと、あっという間に新興国に負ける状態です。

しかし、小さな危機の時はミスもしますが、本当に大きな危機に直面したときって、人間は正しい選択をするような気がするんですね。このところの危機はどう見ても小さいとは思えないんで、底力はかなり期待できると思います。

経済専門家の立場から脱出方法を考えると、5年くらいは円安好況だったわけで、産業改革や構造改革の動きが鈍化していた。大手メーカーが頑張ってくれば大丈夫だと思っていたが、幻想だと分かった。状況を好転させるためには根本から考え直さなければいけない。一つはこれまで避けてきたグローバル化を、どこまで外需と内需のバランスを取るかをもう一度考え直さなければならぬんですが、内側だけでは解がないので、どうやってもっと海外に投資したり、日本に外資を誘致したりして産業を活性化するかを考えなきゃいけないんですよ。

谷口正晃

家庭と仕事 バランス見直そう

海外資本や外国人労働者受け入れはハードルが高い。エマニエル・トッドという文化人類学者も指摘していますが、実は「いごご婚」を許している文化の国において、移民はあまりうまくいっていないんです。つまり、日本も難しいことになります。他民族を自分と同等のものとして受け入れる文化的素地を、日本は2000〜3000年は作っていない。

これからです。将棋というゲームは、歴史や文化、伝統、思想などが色濃く反

教育の機会平等。いじけてしまう。そして、「貧困の文化が育ってしまう。民主主義の基

機会の平等とは。教育ですね。日本は教育に対する公的支出が不足しています。不足は家計が埋めていきます。すると、対応できない家庭の子供は格差の再生産に巻き込まれてしまう。学歴不足で就職

機会の平等とは。教育ですね。日本は教育に対する公的支出が不足しています。不足は家計が埋めていきます。すると、対応できない家庭の子供は格差の再生産に巻き込まれてしまう。学歴不足で就職

大きな変化を好まず独自の道をゆく。「ガラパゴス的」という話になるわけですね。

確かに変わってきていると思います。ただ、私は、高齢者に対する尊敬も持つべきだと思っんです。活躍できる態勢も整える必要があるとも思う。それから、私が今年最大の課題と思っっているのは、正規、非正規雇

今年は団塊世代の大量退職の年です。若年層の活躍の場も少しは広がるのでは。確かに変わってきていると思います。ただ、私は、高齢者に対する尊敬も持つべきだと思っんです。活躍できる態勢も整える必要があるとも思う。それから、私が今年最大の課題と思っっているのは、正規、非正規雇

非正規雇用者では女性の比率が圧倒的に高い。女性の教育レベルは高

女性の活用という点で、将棋の世界はいいかな。奨励会に所属して(男性に



解決策は「出島」じゃないですかね。江戸時代は活発に貿易をする一方で、外国人居住地を定めて上手にコントロールをしていた。しかし、それを担う政治が混沌としているのが今の日本の悲劇ですね。

冒頭、若者の75%が「努力が報われない」と考えていると指摘されていますが、

企業が女性に補助職と総合職を選べというのに似ていますね。ところで、交流戦はどれぐらいあるんですか、女流棋士と(奨励会の)棋士の間の。

そうですね。やっぱりかなり違うんですね。よく私、「庇護と差別は裏表」という話をするんですが、女性が庇護を求めるとは差別されてしまうんですよ。

うーん、それは男からは言えない言葉ですね。

